

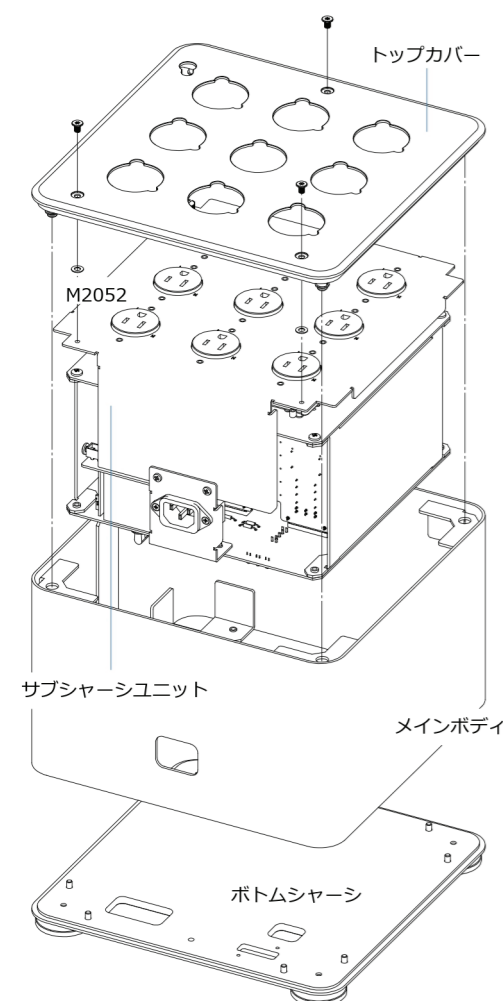
**Profile** 光城精工創業35周年“アニバーサリ+Jtune”企画の第二弾として開発された電源ボックス。フィルターとラインインピーダンスの低減によりノイズ伝播を抑制し、8口の出力をダイレクトライン3口とフィルターラインの5口に分けている。さらに仮想アース専用コンセントに加えて独立したアース端子を備えるほか、メインスイッチ兼サーキットプロテクタで過電流保護し、雷サージにも対応。内部配線をプリント基板化することで、各電力ラインの長さを短縮。仮想アース技術を電源ラインへ応用して、各N/Lラインにアルミ電解コンデンサーを6個ずつ配置することで表面積34,500cm<sup>2</sup>(畳約二畳分)/Line、GNDは220,000cm<sup>2</sup>(約4.7m×4.7m)と広い表面積の確保を実現させた。現時点で光城精工が持つ技術が最大限に活かされた超弩級のパワーコンディショナー。

# KOJO TECHNOLOGY Joker8+VPs

パワーコンディショナー  
¥902,000(税込)  
※世界数量25台限定

## Specifications

●電圧:AC100V(定格AC125V) ●周波数:50/60Hz ●容量:1,500VA ●相数:単相アース付き ●インレット:IEC60320 C14 ●コンセント:NEMA5-15R(ダイレクトライン3口、フィルターライン5口、仮想アース専用ライン1口) ●ライン 導体表面積(typ.):N/L 34,500 cm<sup>2</sup>/Line、GND 220,000 cm<sup>2</sup> ●保護機能:過負荷機能(15A以上サーキットプロテクタ)、雷保護機能 サージアブソーバ ●絶縁耐圧:AC1,500V 1分間 ●絶縁抵抗:DC500V 100MΩ以上 ●サイズ:250W×173.3H×250Dmm(アース端子含まず) ●質量:約8.0 kg ●付属品:マニュアル/保証書/インシュレーター×4/インシュレーター取り付けネジ×4/六角レンチ×1 ●取り扱い:(株)光城精工



各機能を示すアイコン。シルク印刷ではなくレーザー刻印されている



底面にサーキットプロテクタ付きのブレーカースイッチとLEDライト用のスイッチを備える

Joker8+VPsの構造図。新メカニカル・アイソレーション・システム+βベータ(M.I.S.+β)を採用。サブシャーシユニットを吊り下げること、振動に対して特に有利な構造になっている

# KOJO TECHNOLOGY 創業35周年記念モデルの第二弾 斬新な技術を投入し開発された パワーコンディショナーが登場

Text by  
生形三郎  
Saburo Ubukata  
Photo by 田代法生



フィルターによるコンデিশニング効果を増強させたことにより、磨きがかかったプロダクト

独自のなアプローチによって開発された革新的プロダクト

光城精工がハイエンド電源ボックスを作るとしたらどんなものになるのか？ その可能性を探求するとともに、光城精工ならではの革新的なアプローチによって、ユーザーがアツと驚くような革新的なプロダクトを世に送り出した。そんな同社ならではの熱い思いから誕生したのが、昨年突如登場したPlatinum 4・V PおよびPlatinum 6・V P電源ボックスであった。

一般的な電源ボックスに用いられる内部配線の代わりに、極厚パターンのプリント基板構成を採用することで低インピーダンス化を図るといふ前代未聞の構造を武器に、驚くほど精緻かつクリーンなサウンドを実現してみせた。

そして、その意欲作から半年も経たぬうちに、今度は、基板構造のアイデアは踏襲しつつ、それを遙かに上回る弩級規模を誇るパワーコンディショナーが登場したのである。それが今回紹介するJoker 8+V P sである。

外観からして実に独創的である。本体天面のトップカバーに各コンセントのプリント基板ユニッ

トが吊り下げられており、音の開放感を考慮して、取外して完全に固定されない仕様となっている。

各コンセント基板ユニットは垂直に立てられており、それが底部で水平方向に配置される基板に接続されている。その構造ゆえに、このユニークなボディ形状を採っているのである。

なお今回は、仮想アース技術のみを応用したダイレクトラインに加え、フィルターを内蔵するラインも設けられるほか、「仮想アース接続用コンセント」も中央に一口用意されている。

ちなみに、電解コンデンサーによる仮想アース部の容量は、Platinumシリーズに比べても圧倒的に増強されているから驚くほかない。

●フィルターラインに接続  
音色に精細さや透明感が生まれ  
繊細さを実感する音になる

試聴は、まずは、オーディオシステムのうち、ネットワークプレーヤー「NODE ICON」のみを接続して聴いてみた。

NODE ICONをフィルターラインに接続すると、オーケストラの姿は、実にクリーンな音で立ち現れる。

音色の表現に精細さや透明感が

生まれ、自然な光沢が生まれるのである。休憩時に残る音の余韻も、ただ余韻が延びているだけでなく、楽器の音が、微かな揺らぎを残しながら余韻が収束していく様を自然に浮かび上げてくれる。木管楽器や弦楽器は、滑らかに丁寧な表皮の質感を帯びて、繊細さを実感する音になっている。演奏空間のホールの広大さや、それが響き渡る生き生きとした残響の有り様が出てくるのだ。

ロックミュージック・ソースでは、ヴォーカルの発音やシンバルが明瞭な出方となって耳に届いてくる。ギターソロは、やはり潤いのある光沢が引き出され、張りがあがりながらもバリツとした歪み系の音色の旨味が引き出されている。バスドラムも、ボディの深い胴鳴りをしっかりと再現しながら、ビーターがヘッドに当たる際のアタック感もしっかりヒットさせる明朗さがある。

女性ヴォーカルソースでは、歌声の淑やかさや色気がうまく引き出されていて、歌い手の表情をより説得力豊かに浮かび上げている。総じて、フィルター内蔵ボックスの心地良い音色のよさがありながら、脚色の付加や音抜けの悪さは伴わないという、理想的な効用

ダイレクトラインは、音離れが良く、音同士がベタつかない透明度の高さが実に印象的だった。

●アンプも加えて聴く  
音像とその背景に広がり  
空間とのコントラストが高まる

次は、プリアンプとNODE ICONをフィルターラインに接続した。

すると、明らかに音の輪郭が際立ち、クリアネスが上がる。音の地と図、即ち音像とその背景に広がる空間とのコントラストが高まっている。

単純に音の奔放さと言う点のみにおいては、ダイレクトラインに分がありそうだが、フィルターラインでは、ヴォーカルやスネアドラムにしろ、音楽の中域要素が明瞭に立ってくるため、音楽がよりメリハリを持つて伝わる魅力がある。この辺りは、接続機器やユーザーの好みによってコンセントを使い分けることで、チューニングを楽しむことが出来るだろう。

●パワーアンプも加えて聴く  
明瞭度が増し奥行き方向へ  
楽器配置がより明解になる

最後に、そのままダイレクトラインにパワーアンプを接続してみ

音の清潔感は一層拡大する。音一つひとつの陰影が引き出され、奥行き方向への楽器配置がより明解に描き出されるようになる。同時に、超低域から低域にかけての帯域も、より着実かつ深い沈み込みを味わえる。それも、不自然な強調を呼び込まないことが秀逸だ。

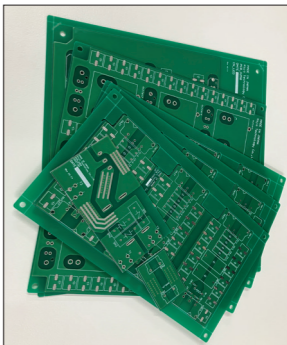
オーケストラソースは、奥行き方向に伸びていく余韻の鮮明さや、ボウイングにおけるアップボウとダウンボウの順序までも容易に判別できるほどに、きめ細やかで繊細な描写に分け入るようになる。

ロックミュージックでは、静けさが高まり、ジャンル故そこまで重視してこなかったヴォーカルの写実性の高さを嫌でも実感させら

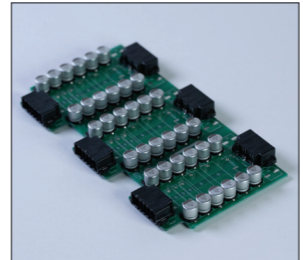


ACアダプタが干渉しないよう各コンセントの間隔も考慮されている

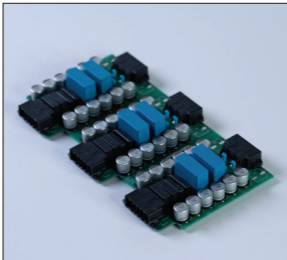
Details



銅箔の厚みが70μmという極厚のプリント基板(PCB)を採用。シムトリックレイアウトすることで、最短かつ同一条件での電力供給を実現



ダイレクトラインに用いられる電源ライン用の基板。3口あるコンセントにそれぞれ実装されている



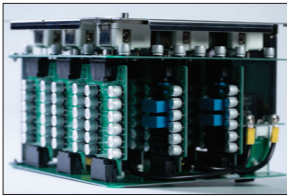
フィルターライン用基板。5口あるコンセント部分に実装される高周波特性に優れた岡谷電機製ノイズサプレッションキャパシタなど高品質なものを採用



昨年発売されたプラチナムシリーズでも採用された、富士山をモチーフにしたインシュレーターが4個付属。本製品は3点支持と4点支持のどちらにも対応可能



スイッチでON/OFF可能なLED照明も搭載



各基板がサブシャーシに固定された状態のJoker 8+V P sの内部

試聴音源



- A 「FRAGILE」KEIKO LEE  
試聴曲:FRAGILE
- B 「UNLIMITED LOVE」Red Hot Chili Peppers  
試聴曲:Black Summer
- C 「MOZART SYMPHONIES」交響曲第40番、第36番「リンツ」、第35番「ハフナー」タルモ・ヘルトコスキ&ドイツ・カンマーフィル  
試聴曲: 交響曲 第35番 二長調 K 385《ハフナー》第1楽章:Allegro con spirito  
※試聴は全てQobuzによるストリーミング再生